

学界情報

国際会議レポート：IECON 2004

The 30th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (November 2-6, 2004, Busan, Korea)

はじめに

2004年11月2～6日にIECON'04が韓国の釜山で開催された。釜山は人口約400万人の韓国の東南端に位置する大きな都市であり、近郊に有名な古都慶州が控えている。山と川と海に囲まれ自然と調和した町として知られており、町には温泉が多く散らばっている。港は自然の深い入り江に囲まれた世界有数の貿易港である。会場は市の中心より1時間足らずのリゾート地にあるすばらしい五つ星のParadise Hotelで開催された。参加者で当ホテル宿泊者は通常料金の半額以下の割引価格が適用され、高級ホテルに初めて泊まる我が若い学生たちにとってホテル内の広いプールや広い温泉施設などすばらしい経験であった。初めての国際会議以上に、感激も大きかったようである。

ホテルの周りには海の町の特徴である海鮮料理や韓国特有の焼き肉料理など値打ち価格でふんだんに味わうことができた。IECONと兄弟関係の国際会議-IEEE-ISIE-2001-International Symposium of Industrial Electronicsが当ホテルで開催されたときは韓国における融和政策がまだ広まっておらず町に出てもハングル文字との格闘であったが、今回は大衆食堂においても日本語の漢字が併記されている場所も多く不自由は無かった。今後も同様な互いの雪解けを期待したい。

会議の概要

さて、IEEE Industrial Electronics Conferenceは1975年から毎年開催されており、1年おきに米国と諸外国で交互に開催されており昨年は米国のRoanokeであった。会議の趣旨に従い、いわゆるパワーエレクトロニクスその他、制御等に関連した多くの応用分野も統合している。主催はIEEEのIndustrial Electronics Societyである。日本では計測自動制御学会がサポートしている。従来のパワーエレクトロニクスの範疇に含まれるものはちょうど6割であった。Biomedical Engineeringや各種制御理論など多彩である。今年の投稿論文数は650件であり、543件が受理され採択率は84%であった。内訳は、日本(92/110)、韓国(158/196)、中国(95/118)、台湾(42/45)、USA(20/23)であった。デスクに聞いた情報では550名の参加者が登録され、半分は学生メンバーであり半分はレギュラーメンバーであった。日本からの学生参加者も多く学生にとって良い経験になったと思われる。

隣国の中国が外国参加者として日本を上回った。今後の研究技術分野の中国の躍進が伺えた。今回と同様な国際会議があると仮定すると今後日本が挽回することはもはや無いのでは、とも思われた。この会議を境に日本の凋落が続いて行かないことを願う。BanquetにおけるGeneral Co-ChairのMan Hyung Lee氏の挨拶の中で中国の参加者数が外国の中で最大であったことに関し特に感謝の言葉があったことはこれを象徴する出来事として特筆に値しよう。ただし、全般において論文の数に対して参加費を払いながら参加しない人も多かった。

Tutorial

Tutorialを見ると学会の方針や動向を占うことができるためこれについて述べる。以下の6課題が採択され講演がなされた。

- AC Permanent Synchronous Motors
- Robust and Reliable Controller Design
- Space Vector Modulation Techniques for Inverters
- Industrial Informatics

最近、産業情報科学分野を主題とするIEEE-Transactions on Informaticsが発刊を始めた(年4刊、附属の会議はIECONより分岐しINDINで、来年はPerthで第3回が開催予定)。INDINは学究分野と産業分野で分散して行われていた情報関連の研究の統合を目指した会議である。その努力を継続するためTutorialとして、過去の会議の成果を踏まえつつ各分野の認識の深い5大学5学者及び1企業の研究者によりINDIN誕生の経緯も含めて2日間に亘り極めて充実した講演がなされた。Special SessionにおいてもIndustrial Informaticsに関する発表が組まれ充実・展開に対する熱意が見られた。

- Network-based Control Systems
- European CE Marking Requirements of Power Converters and Drives

ヨーロッパ統合の結果各国の規格も統合されこれに合わせてアジア等他のEUへの輸出国も対象となるがCEマーキング(Conformity of Europeの略で規格に適合している旨を示すマークが必要となる)についての上記の課題の講演が行われた。これらは会期中に分散して毎日行われた。7セッションに分かれて行われた一般セッションのプログラムは<http://iecon04.pusan.ac.kr/>に詳しく掲載されている。

Banquet

5日のBanquetでは美しい韓国民族舞踊や芸能の催しがあり豊富で美味な晩餐と共に堪能することができた。最後には種々の表彰も行われた。本D部門会員に関する主なものは大西公平部門長が本会で最も名誉とされるDr.-Ing. Eugene Mittelmann Achievement Awardを受賞した。また昨年度IE-論文誌のBest Paper Awardとして名古屋工業大学の研究グループM.Saito, T. Takeshita, N. Matsuiの各先生が“Modeling and Harmonic Suppression for Power Distribution Systems”の論文での荣誉ある授与がなされた。蛇足になるが、昨日IECON'04の事務所より筆者宛にBest Presentation Awardの立派な表彰状が送られてきた。いわれや経緯が分からないため感激半分であるが、率先して登壇して発表することを心がけていることに対し、天より激励をされたと考え、国際会議を楽しむ中で今後もこの心がけを守ってゆきたいと考えている。

以上種々の情報提供でお世話になった愛知工科大学教授堀孝正先生に感謝の意を表します。

松井景樹(中部大学)
(平成16年11月30日受付)